

平成30年1月29日

福島県高校教育課

「新たな県立高等学校入学者選抜の基本方針」の策定に係る
県民意見公募の実施結果について

「新たな県立高等学校入学者選抜制度に関する中間報告書」に対する貴重な御意見をいただき、ありがとうございました。

お寄せいただいた御意見につきましては、以下のとおり対応させていただきましたのでお知らせします。

1 件名

「新たな県立高等学校入学者選抜制度に関する中間報告書」について

2 実施期間

平成29年8月25日（金）～平成29年9月25日（月）

3 策定する計画等の名称

新たな県立高等学校入学者選抜の基本方針

4 提出された意見

(1) 提出された意見の数

13件（26項目）

(2) 提出された意見に対する県の対応

別紙のとおり。

「新たな県立高等学校入学者選抜制度に関する中間報告書」への意見に対する県の対応

整理番号	ページ	該当内容	御意見	県の考え方
1	-	全般について	今後、決まった答えがあって、それに従っていけば良いという時代は終わり、自分で答えを求めて考え、自分なりの結論を出し、行動する力がますます求められるようになっていくと思われる。そのためにも、今から、高校入試を受験する子供がいる保護者の立場で考えると、学校でよく学びできるだけ力を付けてほしいと思う。高校合格が最終目標ではないので、単に高校に入学できれば良いというわけではなく、中学校で十分学力を伸ばして、そして高校に入り、さらに学力を伸ばして、自分の可能性を伸ばしてほしい。新たな高校入試制度ならば、中学校で学習する時間も保証されるので、中学校における学びもさらに深まるのではないかと。そのようになれば、中学校・高校接続の面においても今よりもさらにスムーズになると思われる。また、現行制度のⅠ期選抜にあたるシステムもあるので、いままでどおり、多面的な評価尺度による選抜も保証されているので、受験生にとって選択の可能性があるのではないかと。今後の福島県で学ぶ子供たちにとって、新たな高校入試制度は、必要であると考えます。	いただいた御意見は、「福島県立高等学校入学者選抜検討会議（以下「検討会議」という。）」において審議いただき、「高等学校入学者選抜制度の在り方に関する報告書（以下「在り方報告書」という。）」において報告いただいた内容と、「平成29年度福島県立中学校・高等学校入学者選抜事務調整会議（以下「入学者選抜事務調整会議」という。）」において審議いただき、「新たな県立高等学校入学者選抜制度に関する中間報告書」及び「新たな県立高等学校入学者選抜制度に関する報告書」（以下「新制度報告書」という。）において報告いただいた内容に沿っているものと考え、今後ともこれらの報告書に基づいて制度整備を進めてまいります。
2	-		高校入試改革について、Ⅰ期選抜とⅡ期選抜を同時期に実施し学力検査を課すことについて賛成です。時期的にも今のⅠ期選抜では中学生にとって早すぎます。実際に学力検査を受けることを避けるためにⅠ期選抜を受験する中学生が多く、学力検査に正々堂々取り組むという経験をさせ人間性の育成につながるような制度をお願いしたい。また、現行のⅠ期選抜が高校入学後の生活に有効に機能しているとは言えない状況があります。	
3	-		中学一年生の保護者として、新制度においては、学力検査が課せられることを前提に、子どもに学習に取り組むよう話をし、共通理解を持って高校入試に備えています。	
4	-		私は、今年度受験を控えている中学3年生です。Ⅰ期選抜よりは、学力検査が課されるⅡ期選抜を考えています。5教科のこれまでの学習の成果を、試験を受けることで試したいと思っています。私には弟がいますが、弟にも同じように毎日しっかり学習して、受験してもらいたいと思っています。	
5	3	前期選抜について	受験機会を複数にすることと準備期間を短縮する観点から、前期選抜は有効だと思います。学力検査も保証されていて良いです。目標を立て、それに向けて頑張るとするのは、スポーツでも勉強でも同じと考えます。目標を達成した後は一定期間オフするのが人間として健全なことです。目標達成直後もそれまでと同じモチベーションで頑張るとするのは、どの世界でも現実的にはありません。	いただいた御意見は、「在り方報告書」及び「新制度報告書」において報告いただいた内容に沿っているものと考え、今後ともこれらの報告書に基づいて制度整備を進めてまいります。
6	7		前期選抜における合否判定の手順について、同一校の特色選抜と一般選抜への出願とありますが、今までのようにⅠ期で不合格だった場合にⅡ期で学校を変えることができましたが、同一校のみとなれば生徒・保護者・教師で十分志願先を検討しなければならなくなりますので選択の幅を広げてほしいと思います。	御指摘のとおり、新制度の前期選抜においては、同一校のみの出願となりますが、生徒が自己実現の夢を持って本当に学びたい学校を主体的に選択することが重要であると考えます。「新制度報告書」において報告いただいたように、前期選抜において、同一校の特色選抜と一般選抜を受験する場合には、同一学科でなくてもよいという方向で検討してまいります。
7	3	原則志願者全員に学力検査を課すことについて	確かな学力を育むために、全受験生に学力試験を課すことは望ましい。別途検討していただきたいことは、入学試験問題づくりにおいて、学習指導要領の目指す思考力・判断力・表現力等を問う問題の一層の充実を図ることである。	入学者選抜学力検査につきましては、御指摘のとおり、より適切な選抜試験問題になるよう工夫するとともに、今後とも一層の充実を図ってまいります。
8	3		学力向上に資する選抜という観点から、志願者全員に学力検査を課すことに賛成です。中学生の25%が教科書に書いてあることを理解できないまま卒業している現状（9月25日の新聞報道）を鑑みると、学力検査を課さないという選択肢はないと思います。	
9	4	「志願してほしい生徒像」について	「志願してほしい生徒像」の具体的な記載内容について、出場した大会名や実績、取得資格の基準等を記載できるようになることにより、各高校の特色を踏まえて出願できるようになり、評価できる。ただし、大会名等を具体的に記載すると、それら以上の実績がないと出願できないのではと志願者が考えることも予想され、高校側で記載内容に注意を払う必要がある。	県教育委員会が記載項目や内容、許容範囲等を例示することにより、各学校が自校の特色や学科の特性に応じたわかりやすい生徒像を示し、志願者の志願意欲が高められるよう指導してまいります。
10	4		「評定平均値の記載は行わない」については、学校により差があるので比較しづらい点を考えれば妥当と思われます。	
11	3	特色選抜について	学力も含めて、自分の持っている力を生かす道筋は大切なことだと思います。しかし、特色選抜を受験するにしても、十分な学力を持って進学することで、自分の進路を自分で探究し、志を持って進んでいかせたいとも思っているところです。	「在り方報告書」及び「新制度報告書」の内容に基づき、その趣旨をいかしたよりよい制度を整備するよう検討してまいります。
12	4		特色選抜における定員枠について、現行の10～40%を5～50%に拡大したことにより、各高校における入学してほしい生徒層をさらに明確にできると思われる。	
13	4		「50%を超えて定員枠を設定できる」については、学校の特色を生かすことを考えればやむを得ないが、一般選抜の生徒には枠が少なく厳しいのではないかと考えられます。	

整理番号	ページ	該当内容	御意見	県の考え方	
14	5	連携型選抜について	<p>・連携型選抜は、現行Ⅰ期選抜と同日に実施していること、学習意欲の維持や学力向上の面から、学力検査導入は実施すべきであると考えます。</p> <p>・連携型選抜への出願資格を有する者の中には、JFAアカデミー福島と双葉地区教育構想ピクトリープログラムに参加している志願者がいる。この志願者は、中学入学時に数回の選考を経て入学してきているが、中学校生活は通常の生徒と共に送っている。そういうことであるならば、ふたば未来学園高校への進学の際の入学選抜は、Ⅰ期選抜とⅡ期選抜を統合した「前期選抜」同様、学力検査を実施してもよいのではないかと考える。中学校入学の際に、6年間を通して中高一貫教育を保障する方針で入学させていると思いますが、学力検査は実施し、仮に著しく低い成績の者がいた場合は入学後に補習等による支援で、ある程度の学力を身に付けさせるべきであろうと考えます。（特に、国際的なアスリートとして活躍していく者たちのために）</p>	<p>いただいた御意見のとおり、連携型選抜にも学力検査を導入いたします。</p> <p>なお、併設型高等学校において、当該高等学校に係る併設型中学校の生徒については入学者の選抜は行わないものとなっております。</p>	
15	5	選抜資料の比重について	学力検査の成績に、より重きが置かれることを望みます。	<p>選抜資料の比重につきましては、各選抜の趣旨を踏まえ、学校の特色や学科の特性等に応じて、各学校が学科ごとに設定することになると考えます。</p> <p>現行制度のⅡ期選抜においては、学力検査と調査書の成績の比重について原則1：1としております。「新制度報告書」では、新制度の一般選抜においても、現行のⅡ期選抜と同様に、原則として同等とし、比重を変える場合は、その比率について、学校が県教育委員会と協議して決定していくこととされており、報告書の趣旨を踏まえて検討してまいります。</p>	
16	5		（一般選抜において）学力検査と調査書の成績の比重を、「原則として同等」ではなく「学力検査の成績の比重を多く」にしてほしいと考えます。		
17	5		特色選抜及び連携型選抜における各選抜資料の比重について、「県教育委員会が定めた範囲」はいつごろ提示される予定か。		
18	5		前期選抜及び連携型選抜における各選抜資料の比重について「特色選抜及び連携型選抜のいずれにおいても、学力検査の成績を選抜資料に含める」という点に賛成であるが、「学力検査の成績」と、「調査書の審査結果」「面接の結果」及び「実技等その他の検査の結果」の「配点の比率」について、できるだけ早い時期に、かつ詳らかに志願者に公表することを希望する。		
19	2,3,6	選抜日程について	平成32年度より前後期とし、その前期を「3月上旬」とする案ですが、2「在り方報告書」の（1）-①-イを懸念されているということであるならば、前期は『2月下旬』等、もう少し早めにも良いのではないかと思います。全国的に見ると、「3月上旬」に公立高校の入試を行っているところは多いようですが、私自身が東京都出身の為（都立は2/24前後に入試）、福島県の県立高校入試が3月に入ってからで、さらに発表は卒業式後（都立は3月頭）ということに、大変驚きました。進路も決まっていない発表待ちの状況で卒業式を迎える…というのは不安ではないでしょうか？「昔からずっとそうだった…」と言われてしまえばそれまでですが、子供達の気持ちはどうなのか、とても疑問です。また、進路決定が遅いことは、次の準備をする親の方も大変（ほとんどの企業が年度末で忙しい時期）だと思いますので、全体的に日程を早めに進めていただけますと、受ける側、受け入れる側にとっても良いのではないかと考えます。	<p>日程の在り方につきましては、「新制度報告書」で報告いただいたことを踏まえ、中学生が最後までしっかり勉強して円滑に高校生活を始められること、日程の設定の一つの基準となる合格者発表日も考慮して検討するべきものと考えております。合格者発表日につきましては、これまでも「入学選抜事務調整会議」での協議を踏まえて、中学校卒業式の後に設定してまいりました。したがって、「新制度報告書」で報告いただいた日程のように、前期選抜は3月上旬に、合格者発表を卒業後に実施する方向で検討してまいります。</p>	
20	6		選抜日程の概要について、検査等に最長3日程度、その後、入試事務等に最長5日程度の日数がかかると、最長で8日程度（土日を含めると10日程度）高校1・2年生の授業が行えないことになってしまい、学習指導上及び生徒指導上の問題が発生することも予想される。「最長で」ということなので、高校によっては特色・前期選抜にかける日数が少なくなることもあると思われるが、「最長」の日数を短くはできないか。	「新制度報告書」において、具体的な日程も示されておりますが、各学校で実施する選抜の数や内容に応じて、選抜に係る検査・入試事務等の日数が短くなる学校があり得るものと考えております。	
21	3		「3月上旬に実施する。」の部分について、今までの3月上旬よりはやや早めの方がよいのではないかと。現行のⅠ期・連携とⅡ期の入試事務業務が1つになるため、高校側が大変ではないかと考えます。（合格発表、Ⅲ期は現状通り）	「在り方報告書」の入学選抜制度の改善に向けた基本方針で示された選抜に係る期間を短縮するという観点から、「新制度報告書」で示された日程を踏まえ検討してまいります。	
22	1,2,6		選抜日程を含む今回の制度改革全体には、賛成の立場ですが、「学習意欲の喚起」について若干気になりました。本改革の趣旨及び「新学習指導要領の目指す方向性を踏まえ」て今後検討するという意味からも、最終報告に向けて「学習意欲の喚起」という部分にももう少しスポットを当てて、工夫できる点はないか検討すると更に良いものになるのではないかと考えた。	受験生の「学習意欲の喚起」につきましては、特色選抜や連携型選抜における各選抜資料の比重に係る調査書の「各教科の学習の記録」や学力検査の成績の具体的な取扱いにおいて、各学校で工夫してまいります。また、御指摘のとおり、現行制度における受験生の学習意欲の維持の課題に対しては、全て選抜日程の変更だけで解決されることではないと考えますので、今後とも中学校と高等学校の連携のもとに高等学校入学までの受験生の学習意欲の維持について検討してまいります。	
23	2		選抜日程を含む今回の制度改革全体には、賛成の立場ですが、「①入学選抜の日程について」の「ア 合格内定者の内定後の学習意欲の維持が難しい」について若干気になりました。中学校の学習は、中学校学習指導要領に基づき、自校の生徒の特徴や実態等を踏まえて立てた年間指導計画により計画的に実施されるものである。よって、内定後の学習意欲の問題は、学習指導上の問題である。「合格すると生徒が全然やる気を見せない」から、日程をできる限り後ろにもってこることで解決を求めるとするのは根本的な解決ではないと思う。各中学校におけるキャリア教育の観点からの計画的・個別的な指導の更なる充実も併せて希望したい。		
24	2		Ⅰ期選抜合格者内定者の学習意欲の維持は難しいことが多く、試験のあり方・日程により、それが改善されることを望みます。		
25	3		教育活動への影響軽減の観点から選抜にかかる準備期間を短縮することに賛成です。現在の選抜では、1月から3月まで高校入試の準備期間となっているため、大学進学を目指す生徒が在籍する高校では、進路指導が十分にできないことが問題です。	「在り方報告書」の入学選抜制度の改善に向けた基本方針に沿って「新制度報告書」において示された日程に基づき、検討してまいります。	
26	3		後期選抜について	Ⅲ期選抜については新制度では従来どおりの型ということですが、学力検査を受検せずにⅢ期選抜を受検することのないような制度、いわゆる中学生全員が受検をする制度を検討していただくと公平性が確保できるとともに、中学校での指導の困難さが解消できるのではないのでしょうか。	「検討会議」において審議いただき、「在り方報告書」において報告いただいた内容に基づき、受験生の学ぶ意欲や高校で学ぶ機会を保障することを重視した現行のⅢ期選抜と同様の選抜を実施していきたいと考えます。